

いつまでもお元気で
～100歳おめでとうございます～



水田 イサコさん(深江町)
大正9年10月11日生まれ

永友 シズエさん(北有馬町)
大正9年9月30日生まれ



7 安藤さん家のチョコが長寿犬表彰

9月20日から26日までの動物愛護週間に合わせ、島原獣医師会が長寿犬の表彰を行いました。

市内の長寿犬として、安藤友美さん(口之津町)の飼い犬「チョコ」が表彰されました。チョコの年齢は18歳で、人間に換算するとおよそ88歳になります。

これからも仲良くお過ごしください。

南島原タイムトリップ ～あの頃、君は若かった～



今月の写真

Q. さて、ここはどこでしょう？

A. 答えは次ページの下段をご覧ください。



5 長崎ひまわりプロジェクトが始動

女性たちのネットワークで子どもを守る「長崎ひまわりプロジェクト」の地域活動が始動しました。

9月10日、県内23団体(約12万人)が連携協定を締結し、地域の子どもの安心・安全確保のために、声かけや励ましなどにより子どもと子育て家庭の親を支える取り組みを展開します。

この取り組みの周知啓発のため、10月8日、市婦人会連絡協議会の林悦子会長ら関係者が市役所を訪れ、市内公共施設などへのチラシ設置や広報活動の協力を依頼しました。林会長は、暴力行為の件数増加や低年齢化の傾向があること、少子化にもかかわらず不登校児童が毎年全国で2万人も増加している昨今の現状に触れ、「この取り組みにより、地域のみならず子どもたちへの声かけが広がり、健全な子どもたちの成長につながってほしい」と話しました。



6 忘れない、伝えていく噴火災害の記憶

9月15日、雲仙普賢岳噴火災害により小学校が焼失してから29年が経過したこの日、大野木場小学校メモリアルデー2020が開催されました。例年、多くの保護者や地域の人たちが参加していますが、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため参加者の規模や内容を縮小しての開催となりました。

講話では、講師の長門 亜矢さん(雲仙岳災害記念館職員)が、自らの被災体験を児童たちに語りました。長門さんは、土石流により自宅が被災。長い避難生活を送り、復興までの経験をもとに「大事なことは、災害を忘れないこと。そして伝えていくこと」と話しました。

児童代表でお礼を述べた廣瀬美空さん(6年)は「今日聞いたことを忘れずに、次の世代につなげていきたい。今、学べていることに感謝し、一生懸命生きていきたい」と話しました。

Focus in 南島原

まちの話題



市内各地で行われたイベントやまちの話題をお届けします。



2 熊本県球磨村へ職員を派遣

令和2年7月豪雨の被災地支援のため、熊本県球磨村へ本市職員1名を派遣しています。

九州知事会から要請を受け、復興に向けた協力を行うもので、派遣期間は10月1日からの6カ月間。被災した固定資産の管理や各種補助金の受付事務、派遣職員の管理事務などの業務を行います。

9月29日、佐藤匠実主事(地域振興部観光振興課)に松本市長が辞令を交付し、「九州・全国からの応援職員との業務は貴重な経験になると思う。市職員の代表として十分に頑張ってもらいたい」と激励しました。

佐藤主事は「7月にも球磨村への短期派遣で被害家屋の調査を行い、現地状況はある程度把握している。球磨村のために、自分ができることをしっかりとやっていきたい」と抱負を述べました。



4 ふるさとの海岸を清掃 ～深江ブルプロ～

10月11日、深江ブループロジェクト活動組織と深江中学校の生徒や保護者ら約250人が、地元の海岸を清掃しました。早朝から海岸に落ちている空き缶やペットボトル、漂着した流木や竹などを集めました。

この取り組みは平成26年度から毎年実施されており、この継続的な取り組みにより、ふるさとの海がきれいに保たれています。



1 戸ノ隅老人会が環境大臣賞を受賞

環境保全や地域環境美化に関して顕著な功績があった個人や団体を称える「環境大臣表彰」において、戸ノ隅老人会(西有家町)が地域環境美化功績者表彰を本市で初めて受賞しました。9月28日、松本市長が市役所で表彰を伝達しました。

同会は昭和42年の設立以降、永年にわたり地域の環境美化意識の高揚に大きく貢献してきたことが高く評価されました。

草野英昭会長は、「今回の受賞は現在の会員だけでなく、これまでの礎を築いてこられた先輩方や、地域の皆さんのおかげであり、これからも地域一丸となって活動を継続していきたい」と話しました。



3 皮ごと食べられるバナナの栽培を開始

市では、新たな高収益作物として期待されるバナナの栽培支援を行いました。事業を展開する合同会社PEACE(上田功平代表)は、9月29日、関係者らとともに苗木100本の植栽を行いました。

上田代表は、「植栽したバナナは、無農薬で殺虫剤や洗浄剤などを使用せず、皮ごと食べることができるので、子どもたちにも安心して食べてほしい。一般的なバナナの15度を大きく上回る糖度25度の高糖度・高品質なバナナを目指し、関係者からの指導を受けながら、市の特産品になるように頑張りたい」と話しました。

バナナの木1株からは約150本のバナナが採れ、今回植栽したバナナは来年7月頃に収穫される予定です。